

平成27年9月1日(火)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 日高 和重
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第119号

【目次】

1. 小集団活動全社発表会開催
2. 輸出入コンテナ貨物における鉄道輸送推進について
3. ETC2.0 2016年度以降導入について
4. 新組織紹介 ~フォワーディング営業部~
5. 場所紹介 ~平塚営業所(神奈川県平塚市)の巻~
6. 日本ものづくりワールド2016 参加レポート
7. アジアシームレス物流フォーラム2015 参加レポート



1. 小集団活動全社発表会開催

7月10日に、小集団活動全社大会が当社の水島支社において、4/1に発足した包装・資材事業部門長浜支店の関係者や水島支社のパートナー会社幹部の方々、多数の聴講を頂いて盛大に開催されました。1982年度よりスタートした本大会も今回で31回目を迎え、全社112グループ(国内89・海外23)の中から各支社・営業部で選ばれた7グループと当社の海外現地法人の一つであるインドネシアのLBK(リンタス・ブアナ・カセイ)社のグループを加えた全8グループで行いました。発表テーマは、①四日市支社:YCF立体倉庫スプリンクラー配管圧漏れ対応、②鹿島支社:AF平屋倉庫・守谷倉庫における在庫の最適化、③黒崎支社:ドレージ乗務員のKAITEKI運行に向けた取り組み、④坂出支社:総務部ポータルサイトKAITEKI大作戦!、⑤尼崎油槽所:作業連絡方法の改善、⑥LBK(インドネシア):Let's KAITEKI Maintenance、⑦東日本エリア営業部:倉庫作業におけるKAIZEN、⑧水島支社:外航船入港ガイダンス作成による安全性の向上 と多岐にわたる内容で、質疑応答を交えながら活発な議論が行われました。



石川社長(前列中央)を囲んで

各グループいずれ劣らぬ興味深い内容でしたが、当日4グループ(水島支社、黒崎支社、坂出支社、東日本エリア営業部)を優秀グループとして選出しました。その中から水島支社営業部海運課の「マーメイド」が、11月に黒崎で予定されている「第15回三菱化学グループ小集団活動発表会」の当社代表に決定しました。

2. 輸出入コンテナ貨物における鉄道輸送推進について

我が国の輸出入コンテナ貨物(2010年実績で2億5千万トン)は、9割以上がトレーラーにより国内輸送されており、鉄道輸送はわずかにしか行われていません。環境対策や労働力不足対策の観点からも輸出入コンテナ輸送の鉄道輸送推進は重要な政策課題となっています。

そこで、国土交通省は、5月13日、昨年末より取り組んできた「輸出入コンテナ貨物における鉄道輸送促進に関する調査会」の報告書を公表しました。内容は、以下の通り、鉄道貨物事業者等の関係各社が協力・連携し取り組むべき輸出入コンテナ貨物の鉄道輸送を促進する具体的方策についてです。

○コスト競争力の確保→ショートドレージ※の効率化の検討(鉄道駅への入場経路の最適化などによる作業の効率化及びオンドックレール※の導入)

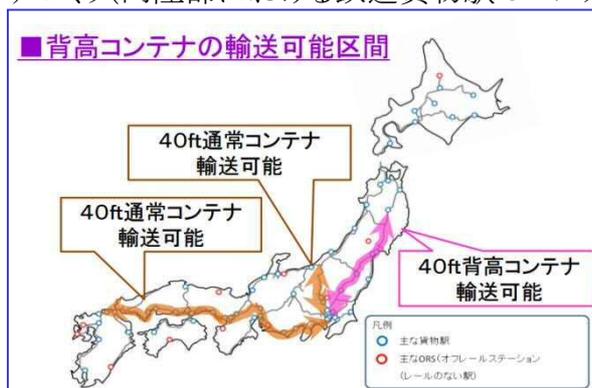
○リードタイムの短縮→コンテナラウンドユース※の仕組みづくり(内陸部における鉄道貨物駅のコンテナデポ化のための整備・改修)

○40ft背高コンテナ輸送の確保→40ft背高コンテナに対応した低床車両の検討

(輸送需要が多く見込まれる区間(関東→九州方面)において、低床貨車の優先的な開発・導入を行う。)

当社でも、モーダルシフトの重要性を早くから認識しており、昨年4月よりJRコンテナの「当社専用枠」での運用を開始し活用して参りました。輸出入コンテナについても今後の動向に注視していきたく思います。

※出典:国土交通省



※ショートドレージ

→ 港湾地区のコンテナターミナルから鉄道貨物駅までのトレーラーによる短距離の道路運送

※オンドックレール

→ 港湾のコンテナターミナルに鉄道の線路を引き込み、コンテナターミナル内で直接鉄道貨車への積卸しを可能とした施設

※コンテナラウンドユース

→ 往路及び復路のいずれかが空となる海上コンテナのトレーラー輸送において、内陸コンテナターミナルの活用などによりコンテナの往復利用(ラウンドユース)を行う取り組み

3. ETC2.0 2016年度以降導入について

国土交通省は、「ETC2.0」の普及を図るため、利用者に対して2016年度から高速道路料金を割引く方針を示しました。具体的には、一旦一般道に降りて再び高速道路に乗った場合でも、料金を追加せず、高速道路を降りずに利用した場合と同じ料金にする予定です。

「ETC2.0」はこれまでのETCによる料金収受・渋滞回避・安全運転支援等のサービスに加え、道路側のアンテナである「ITSスポット」と車両との高速・大容量、双方向通信を用いた新たなサービスです。

都心部では渋滞の常態化で移動が大変非効率であると言われていますが、「ETC2.0」の活用により、交通が特定の時間や場所に集中するのを減らしたり、事故を防止することで、道路ネットワークをより効率的に、長期的に使うことを目指しています。

また、「ETC2.0」の経路情報を用いた物流の効率化も期待されており、例えば急ブレーキや急ハンドルの情報を物流業者へ提供し、運行管理などを支援したり、走行経路を把握することで適正積載の大型車両の通行申請を簡略化することなどが計画されています。

一方で、国内ではETCが既に広く普及しており、高速道路でのETC利用率もほぼ90%に達しています。ETCから「ETC2.0」への切り替えには新たな車載器の購入や再セットアップが必要なため、高速道路料金の割引制度の充実や、車載器購入費用の補助金制度等が期待されています。



4. 新組織紹介 ～フォワーディング営業部～

新生「フォワーディング営業部」は、2015年4月1日付の当社組織改正により発足致しました。旧来、陸運事業本部・フォワーディング管理部が担っておりました国内外輸出入業務(フォワーディング業務)の統括管理機能と、オペレーション業務の融合を図り、お客様に対して“One Window Service”をご提供し、より横断的、かつ、効率的な輸送の実現をご提案致します。現在、日本全国に20数か所の営業拠点を保有しておりますが、その内の5拠点におきましては、自社通関業務を実施しており、当社の海外各拠点(シンガポール、インドネシア、タイ、中国)のみならず、北・南米、欧州中東、アフリカをもカバーし、グローバルな展開を実施しております。化学品の輸送、特に液体輸送については、当社が培ってきたノウハウを最大限に活かすため、自社ISOタンクコンテナ(82基)を中心としたラウンドオペレーションを展開、リースコンテナを利用したワンウェイオペレーションと併せて国内外一貫輸送を実現しております。



<営業拠点と自社通関積揚港>



5. 場所紹介 ～平塚営業所(神奈川県平塚市)の巻～

平塚営業所は、三菱樹脂様平塚工場の本事務所内に所在して、兼務所長と女性2名、三菱樹脂様購買グループからも応援を頂きながら平塚工場・上田工場、三菱化学ハイテクニカ様小田原工場向けの包装資材の購買代行業務に従事しています。営業所としての歴史はその前身も含めると昭和60年から30年間にわたって平塚で業務を継続しています。

所在地である平塚市は相模湾に面して、丹沢にほど近く、温暖な気候に恵まれた暮らしやすい土地柄です。県内では横浜・川崎・横須賀に次ぐ県下第4番目の商工業都市となっています。この発展した平塚も先の大戦末期には大空襲で面積の8割、戸数の6割を焼失する壊滅的被害を被りましたが、その後の復興ぶりは目覚ましく、それを祝うお祭りが七夕祭りとなり、集客数では仙台を上回って全国第1位となっています。

平塚市出身の有名人として山瀬まみさんは全国区ですが、市内では有名な「幸せじゃん」が毎朝JR平塚駅で「何があっても大丈夫、今日もいいことありますように」と通りかかる平塚市民を励ましています。

観光ドライブの折には逗子から平塚・大磯、そして小田原から箱根方面へと足を延ばされるでしょうが、「何度も行ったよ」と言うあなたに平塚探訪をお勧めします。隠れた名所を発見して仲間に自慢する喜びを存分に堪能して下さい。

怖い情報:JR平塚駅近く紅屋町公園の「お菊塚」は、番町皿屋敷で青山主膳に殺されたお菊さん(真壁源右衛門娘)の塚です。怪談は後の創作であり、本当は哀れな悲しいお話です。



【今年の七夕祭りは雨でした】

6. 日本ものづくりワールド2016 参加レポート

6月24日～26日の3日間、東京ビッグサイトにて「日本ものづくりワールド2016」が開催されました。この催しは、製造業向けITソリューションに関する「第27回 設計・製造ソリューション展」、機械要素、加工技術に関する「第20回 機械要素技術展」、3D技術に関する「第24回 3D&バーチャルリアリティ展」、医療機器の開発、製造に関する「第7回 医療機器 開発・製造展」の4つが同時開催され、各展示ブースは多くの人で賑わっていました。

展示会の名称からは一見物流とは関係ないように見えますが、当社が導入している作業解析ソフトや3Dシミュレーションソフトも出展されているなど、業界の枠を超えて活用できそうな技術・ソフトが多数ありました。

今回の展示会で興味を持ったものは、倉庫内を3Dで再現し様々なシミュレーションを可視化し検討できるAR技術です。この最新技術を使用すれば、検討から教育まで様々な活用方法があるなど感じました。

このような展示会に参加すると、技術の進歩の速さに驚かされます。当社が現在持っている解析手法と新たな技術を組み合わせる事で、更なるスキルアップを期待させる内容でした。

7. アジアシームレス物流フォーラム2015 参加レポート

2015年6月10日と11日の2日間、東京流通センターで開催された「アジア・シームレス物流フォーラム2015」に参加しました。

本フォーラムは、アジア各国との物流シームレス化の現状と課題を浮き彫りにし、その解決に向けた方策を探るというコンセプトで企画され、2012年に第1回が開催されてから今年で4回目になります。

今回は60を超える企業・団体がシームレス物流をサポートする技術・製品・システム・サービスの展示コーナーを設置しており、また数多くのセミナーが開催されました。

展示会やセミナーでは、IT技術をグローバルサプライチェーン管理に活用している事例や、環境負荷・コスト低減を強化した物流事例が紹介されていて、ソリューションプロバイダーとしてKAITEKI物流を実現するには、日々進化するIT技術の活用が避けられないと痛感しました。

その一方でシームレスを妨げているのは、アジア各国の物流制度の問題、パレット等の物流機材の統一化など環境整備面での問題が多く、官民一体となってこれらの課題をクリアしていくことが重要と思われました。



編集後記

ソリューション営業部 磯部

もうすぐ秋のはずですが、今年も（毎年？）残暑が厳しく中々冷房の効いた部屋から出ることができません。今年は全国で猛暑日が多く観測されより一層厳しかったです。

そんな暑い夏の楽しみは色々あると思いますが、私の場合は高校野球です。太陽が照りつける甲子園では全国の高校球児達が汗や涙を流しながら優勝を目指しプレーして、全力でぶつかり合う姿を見てもうひと踏ん張りがんばろうと元気をもらえます。

我々も効率化の検討でうまくいかない時があっても、高校球児達のどんなに状況でも絶対に諦めない気持ちを見習い、KAITEKI物流を目指し業務に励みたいと思います。